

番の大きな状況でございます。まだまだ、姫川港は整備が続くわけでございますので。そこらあたりが一番の、私は、課題かと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

はい、わかりました。

よく言う、交通の十字圏交流だとか、交通だとかという中で姫川港の位置づけは、今後、可能性としてどんなものがあるかという中で質問させていただきました。そういった課題をクリアできるものなら、また、そういったことも検討していただきたいと思って質問させていただきました。よろしくお願ひしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で田中議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。

再開を13時といたします。

（午後0時14分 休憩）

+

（午後1時00分 開議）

+

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。発言通告書に基づいて、1回目の質問をさせていただきます。

1、市内児童・生徒のスポーツ実施状況について。

(1) 本年度で、中学校の糸魚川市内大会及び合同大会が最終年とのことであるが、その内容とこれまでの経緯、そして今後はどうなるのかをお教えてください。

(2) 中学校体育連盟主催の糸魚川市陸上競技大会も本年度で終了と聞きますが、その状況はいかがか。

(3) 少子化による競技人口の減少、チーム数の減少と思われませんが、市内中学校4校の部活動の現状をお聞かせください。

(4) 糸魚川市として、また、教育委員会としてこの現状をどう捉えているのかお伺いします。

私は青年期において、スポーツは心身を鍛えるには最も有効であり、仲間意識や感謝の心、そし

て郷土愛も育つものと思っております。しかし、昨今の少子化で、その環境が大きく変化しスポーツもできない状況になりつつあるように思います。今後、ますますその状況は厳しくなると思われます。我々大人が、健全な子育てのため、知恵を出して解決しなければならないとも考えています。いかがでしょうか。

2、市内体育施設の今後について。

(1) 平成28年3月8日策定の糸魚川市公共施設等総合管理指針 第3章の1. 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針に「社会情勢の変化に応じた適正配置を進める」とあります。また、公共施設等の分類ごとの管理に関する基本方針の(1) 公共施設のスポーツ・レクリエーション系施設では、「利用者のニーズを検証し、適切なサービスと施設規模を確保するとともに、中長期的に必要な施設は、機能・設備の充実を図ります。」「施設の利用状況や特性を再検証し、より効果的な管理運営方法を検証します。」とあります。そこで、スポーツ施設利用者のニーズを検証するとありますが、そのニーズの検証の進捗状況をお聞かせください。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目と2点目につきましては、生徒数の減少によって、市内大会が開催できない種目が増加しており、中学校体育連盟は、31年度から春の市内大会を廃止することといたしました。今後は、上越地区大会が年度最初の大会となり、県大会へつながることとなります。なお、小学校の水泳大会及び陸上大会、中学校の秋の新人戦は、これまでどおり市内大会を実施する予定であります。

3点目につきましては、能生中学校が8、糸魚川東中学校が7、糸魚川中学校が16、青海中学校が8つの運動部や文化部を設置しております。これ以外に、保護者の要請があり学校長が認めた場合、特設の部活動として大会に参加することがあります。

4点目につきましては、部活動は、中学生が学習意欲の向上や責任感・連帯感を養うために重要であると考えております。一方で、生徒数及び教職員数の減少による変更は、持続可能とするための全県的な取り組みと捉えております。市としては、社会体育との連携や部活動指導員の導入等について、研究してまいります。

2番目につきましては、各種スポーツ団体等から施設改修などの要望を毎年いただいております。体育協会や地域団体等の意見も伺う中で、対応してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

市内で、今の中学校の部活、もっと詳しく能生、東中学校、糸魚川中学校、青海中学校あたりがどんな部活があるのか、特に、スポーツの関係だけで結構ですけど、お聞かせいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

能生中学校は、陸上、野球、男女バレー、男女卓球、吹奏楽があります。糸魚川東中学校は、陸上、スキー部、野球部、男女バスケット、卓球があります。糸魚川中学校は、陸上、野球、サッカー、男女バスケット、男女バレー、男女卓球、男女ソフトテニス、体操、剣道があります。青海中学校は、陸上、野球、卓球、剣道、女子バレー、男子バスケ、女子ソフトテニスです。ただ、保護者から申し出があり学校が認める場合には、相撲やスキー、水泳や体操等の特設部活動を設ける場合があります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

中学校の部活の前に、ちょっと小学校のことでお聞きしたいと思います。先ほど、市内の陸上競技大会と水泳大会、この2つだけなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

親善大会という名前がついておりますが、水泳大会と陸上競技大会だけです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

それでは、小学校で、実際にいろんな、例えば野球だとかいろんなことをやってると思うんですけど、それはみんな、社会体育の一環という形っていうふうに考えてよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

小学生のスポーツをする状況というふうに捉えて、お答えさせていただきます。

まず、何よりも、体育の授業がありますのでその授業、それから、例えば遠足のような行事があります。それから、クラブという時間がありまして、学校によって対応は違いますが、4年生以上等で運動をする運動系のクラブ活動があります。それで、運動するほうのクラブ活動では、先ほどの小体連の大会に向けた練習をするということが多いです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

小体連自体が、先ほどの親善ってというのは、例えば小体連主催の野球大会とかそういうふうなもの、特にないと思うんですけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

小体連主催は、先ほどの陸上大会、水泳大会のみです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

陸上と水泳、ここらあたりは、やはり陸上部だとか水泳部だとか、そういう社会体育でやってるだけじゃなくて、授業の中で、やはりある程度の優秀な選手だとかそういうふうな者を集めて、親善という形でやってるといふふうに理解してよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

先生のほうで選んでるといふよりも、子供が、まず希望する、その中で進めるということになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

大体、小学校のほうはそんな感じなのかなっていふふうに思っております。

では、中学校の部活で、今、糸魚川中学校がほとんどのというか、かなりの競技やっていますけど、例えば能生中学校ですと、陸上、野球、男女のバレー、あとは卓球男女、本当にわずか。糸魚川東中学校も同じようなもので、糸魚川中学校に比べると、半分ぐらいの部活の種類しかないというふうに思うんですけど、この原因は人数の関係だと思うんですけど、その点、改めてお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（石川清春君）

お答えします。

基本は、生徒の数ということになります。また、顧問も複数の顧問制を引いてる学校が多いので、教職員の数も影響するかと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

改めて、じゃ、現在のそれぞれの中学の人数、お教えいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（石川清春君）

お答えします。

平成30年5月1日段階の人数です。能生中学校180人、糸魚川東中学校155人、糸魚川中学校470人、青海中学校173人です。市内合計は978人です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

逆に、少子化ですので、10年後あたりにこの学校がこのまま継続するとしたら、何名ぐらいになるのか、予測で結構ですけどお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（石川清春君）

お答えします。

現段階ですので、あくまで予想でございます。能生中学校140人、糸魚川東中学校116人、糸魚川中学校355人、青海中学校173人です。市内合計は784人という予想で、194人減というふうに予想しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

すみません。ますます人数が減ってくると、本当にスポーツ、いわゆる特に団体競技に関しては、なかなかチームが組めなくてっていう状況が起きるかと思うんですけど、この点、中体連としてどのような、この現状をどう考えてるのか、もし、おわかりでしたらお教えいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

生徒数の減少は、どの市町村でも起きておまして、中体連としては、例えば人数の少ない部活動については、近隣の学校との合同チームで臨んでもよいというふうな形で、今、改善を加えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

合同チーム、実は、高校も、多分やってるかと思うんですけど、私も柔道で、糸魚川高校で柔道してましたんで、合同チームっていうのがあるんですけど、現実には、やはり大会のときだけ一緒に組む、そういうことでチームワークもなければ、日ごろのあれもないっていうような状況だと思うんですけど、これはあれですか、本当に人数のいないところだけでしか組むことができないのか、その点、ちょっとお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

いろいろパターンがあるんですけども、基本、人数が少ない学校同士が組んで、合同チームつくるとというのが基本です。ただ、過去に聞いた話ですと、大きい学校のチームの一部と小さい学校の一部で合同チームをつくったという例もあるそうです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

+

○3番（山本 剛君）

種目によっては、その学年学年ごとで、部員数が上下するかと思うんですね。例えば青海中学の、ちょっとお伺いしたんですけど、今、3年生、2年生、1年生でチームが組めます。でも、3年生が卒業すると、2年生が5人の1年生が4人で、ぎりぎり9名だと。大会出るためには、もう10名、そういう状況になるような、だから年度ごとによって、その人数によってはそういう合同チームを組んだり、個々に出れたりということが起きるんですけど、その点、もう常に、例えば糸魚川東中学校と能生中学校が常に組むとあって、そんな形は、今の段階ではできないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

基本、2チームが少なくなった段階で、教職員でどのようにするかという検討をすると思いますし、また、校長も自校の状況をよく考え、近隣の校長と相談をすると思います。例えば小さいところが2つ、3つ以上あるときには、また組み合わせも問題になりますので、その都度、校長間でやりとりしながら考えていくというのが常だと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

それぞれの年代というか、学年ごとに人数が変わることによって、やはり少なくなると衰退する。それをもう一度、かなりのやる気のあるものに持ち上げるっていうことは、物すごい大変なことだと思うんですね。その結果がやっぱり、廃部だとかそういうものにつながってるかと思うんですけど、この4つの中学で、過去10年間に、どんな部活が廃部になったのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

各中学校でお話しします。能生中学校は、男子バスケ、剣道、体操。糸魚川東中学校は、女子バレー、剣道。青海中学校は、女子バスケ、水泳、体操。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

先ほど示していただいた10年後、やはり194名の減、かなりの少なくなる学校があると、ま

すますこの状況がふえて、大変なことが起きるんじゃないかと思うんですね。

現実には、小学生が、今、社会体育でかなり頑張ってくれて、地域を、例えば糸魚川、青海、能生という中学校区単位じゃなくて、青海の方が糸魚川に行っているようなチームに入る、糸魚川の方が、例えば青海に来て一緒にやる。でも、中学校が入ると、それぞれの、もう別れざるを得ない。それによっては、チームが組めないとかそういう状況が起きるかと思うんですけど、そんな中で、やはり我々大人がいろいろ、やっぱり工夫しなきゃいけないんだと思うんですけど、私としては、例えば能生・青海・糸魚川東中学校あたりが、常にもう合同でチームを組むような、我々大人として何をしなきゃいけないかっていったときに、やはり、例えば市としてやれることは、その交通の手段を与えてあげるとか、やはりそういうふうな工夫が、私は必要ではないかと。例えば青海中学校ならバレーボールだとか、野球は糸魚川東中学校でやるかとか、やっぱりそんな形で、月曜から金曜ぐらいは、いわゆるボランティアで、60を過ぎた定年の方が見てあげれば、土・日ぐらいは、やはり本当に熱意のある方に、社会体育の一環みたいな形でやはりやるような方法も、やっぱり1つの知恵ではないかというふうに考えてるんですけど、その点いかがでしょうか、考え方としてということですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

合同チームの悩みは、何ととってもウイークデーに、ほぼ、練習ができないというところなんです。土・日は、大会があったり、それでも練習ができたというところで、一緒に練習をしているわけですが、さすがにやはり、交通手段はいつも保護者に頼る状況でありますので、それも1つ、考えていく要素かなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

もう、私も70になりますんで、私が中学校からもう五十何年、60年近くたつんですけど、私らの時代は、本当に一般社会体育っていうものは、余りなかったと思うんですね。中学に入ったときに、いろんな部活にどうだって勧誘されて入って、それから高校へとつながっていくという形で、それが、今、現代は社会体育、かなり移行してきて、国のほうも、やはりそういう形に方向を切ってるかと思うんですね。

また一方、教員も、やはり先ほど言われるように働き方改革だとかいろんな部分で、もう多忙であります。それと同時に、やはりいろんなこういう社会情勢の中で、補償問題だとかいろんなことがあって、どちらかという引きぎみではないかというふうに考えてるんですけど、教員の意識のほう、ちょっとお伺いできればと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

大学等を出てすぐ教員になって、全く運動部を持ったことがない、指導したことがないという人も、部活動を任せられることがあります。でも中で、それでまた勉強をして好きになっていく人もおりますし、また、大分年をいってから、全く違う部活を持って困るという場合もよくあります。私個人もそうでありました。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

今は、中学校だけのことを言ってるんですけど、実は、私も30年、糸魚川高校でやってまして、柔道の大会、行かせていただきました。大会だとか合宿なんか、いわゆる高校のその専門の教師と、よく一緒に飲んだりするんですけど、その中で我々その柔道、特にけがの多いスポーツです。実は、その教員からは、我々学校では異端児っていうか嫌われてるんだよ。要は、学校でけがでもさせるとどうなんだっていう話がよく聞きました。その流れで、やはりだんだん、いわゆるそういう熱心に熱意を持ってやる教師が、だんだん少なくなってきたっていうふうに思ってるんですね。実際にそうだと思うんです。現実には、例えば中学校で、それなりきのある程度のスポーツなりそういうふうなものが優秀な方は、もうほとんど公立行かれません。もう私立のそういうところに行かざるを得ない状況だと思うんですね。やっぱり、そこらあたりが経済的な格差の問題で、行きたくても行けない部分があったり、例えば上越でも、昔は我々世代は関根高校なんてのは、それほどスポーツ盛んでありましたが、今もう優秀ですよ。やっぱりそういう部分で高校の教員、いわゆる中学校の教員も、いわゆる熱意のある方がだんだん、熱意があるんでしょうけど、だんだんそがれていったっていう現状があるかと思います。そんな中で、やはり社会体育に移行せざるを得ない、国もやはりそういう流れ、その中でやっぱり、私はもうそろそろ本当に、糸魚川市が中心になって、教育委員会が中心になって、体育協会とか学校関係者、いわゆる指導者、そこらあたりで真剣にやっぱり考えて、本当に子供の将来っていうか、やる気のある子供たちのために、やっぱり新しい方向を見出していくべきではないかというふうに考えますけん、いかがでしょうか。教育長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

子供たちが健やかな体をつくるために、スポーツということは大変重要であります。義務教育の過程においては、たくましい体と豊かな心、それから確かな学力と、その3つがバランスよく整って成長していくことによって、自分の夢をかなえる大人になっていくということでございます。

それぞれの課題は多くあります。スポーツ、また少なくなってくることによる、部活やクラブ活動の制限というのがありますけども、今の現状の中で継続していくために、持続していくために必要なことは何かということで、今回の変更はあるものと思っております。学校の先生だけでは立ち行かないところがありますので、社会体育、また地域の方々、ボランティアも含めまして協力をお願いする中で、進めてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。

私は、体育協会っていうのは、かなり大きなポイントを占めるんじゃないかと思うんですけど、実は、私も26年・27年のときに体育協会の理事をやってました。そのときは、大会表彰規定ですか、見直しをさせて、提案してすることができました。とはいいいながら、そのときにやはり感じたことは、本当に熱意のある方が、体育協会から離れていくっていう現状が、かなりありました。体育協会の現状、実は理事会だとかいろんなことあると思うんですけど、今のこういう現状を踏まえたこういう議論が、体育協会の中で行われたのかっていうことを、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えします。

体育協会の中では、ジュニア育成が主力の事業となっておりますので、最近では中学校の体育連盟の先生方と意見交換をさせていただいて、指導のあり方だとか競技力向上の面で、協議をさせていただいているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

体育協会にはかなりの参加があるかと思うんですね。その中で、やはり体育協会の中には社会体育の部分と、いわゆる競技スポーツ、特に18歳以下ですか、やはりどちらかという、競技スポーツっていうのはそちらだと思うんですけど、その部分と一緒に、やはり議論としてはちょっと、何か余りにも範囲が広過ぎて、やはり競技スポーツだけで、やはり話す機会がどうしても必要だと思うんですけど、その点、どう考えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

体育協会につきましては、各種の競技があります。競技力向上のためにというところもありますし、最近では高齢者が、特にレクリエーション的なスポーツ、そういうものの団体も加盟をしております。そういう方々、皆さんが集まって評議委員会、また理事会等を運営をしているものでございますので、そういう方々の意見もつぶさに聞きながら、運営の方針を定めているものであります。その中には、青少年に対する健全な育成というところも体育協会が担っておりますので、先ほど課長が答弁しましたように、子供たちが健康に、またスポーツに親しむという環境整備をすることも、体育協会の事業の中に入れております。皆さんで話しした上で、事業推進を行っていただいているものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

やはり、私は、教育委員会が主導して、体育協会、学校関係者、競技団体ですね、いろんなところを含めた、やはり今のこれからの現状についてどうなるか知恵を出す、いわゆるそういう会議なりを主催していただきたいと思います。教育委員会の定例会も、私、結構見せていただくんですけど、ぜひともその中の1つの議案として出して、議論していただければと思います。実は、教育委員のある方から、やはりこのことは大きな問題だよというふうに言われました。だから本当に、将来10年後、5年後、10年後ですけど、本当に子供たちが、本当に好きなスポーツが、体を動かす心身ともに鍛えられる、やはりそういうふうなものがやれるような環境づくりっていうのは、もう今から本当に考えて、そういう体制をつくらなければならないというふうに思ってますんで、ぜひとも、教育委員会でも取り上げていただきたいと思うんですけど、定例会ですね、その点どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

これから学校教育の体制を補完するために、社会体育の力をおかりするところでございます。その中に、部活動指導員という言葉でお話をさせていただきましたが、そういう方々のご協力をお願いするためのシステムを、これから考えてまいりたいと思っております。国や県のガイドラインもできておりますので、糸魚川市としても協議をして進めていきたいと思っております。その段階で、その時々進捗状況等を、教育委員会の会議にも、また報告をしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ぜひとも、よろしくお願いいたします。

やはり、本当に前向きな姿勢で、本当に子供たちのために、ましてや糸魚川市はゼロから18歳までっていうふうな子供のためっていうことをうたってますんで、ぜひともよろしくお願いいたしますと思います。

次に、市内の体育施設の今後についてっていうことで、質問させていただきます。

今後のニーズというふうに基本方針にあるんですけど、あれですか、それぞれの例えば陸上競技のニーズが、例えば現在はどれだけ、実際にやる方がこれから5年後、10年後にはどうなるのか、そういうニーズですね、競技人口のニーズ、競技人口の数などを把握されておるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えします。

体育協会加盟の競技団体の会員等につきましては把握をしておりますが、市内全域での競技人口となると、把握をしておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

糸魚川市で社会体育ですね、そういうことなんですけど、そこで活動している生徒の数、わかりましたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

社会体育には、小学生と中学生が混じってしまうんですが、サッカー、卓球、硬式・軟式テニス、少年野球、バスケットボール、体操等々23種目に、重なっている子もいるんですが、延べ人数で1,277名の児童・生徒が参加しています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

かなりの方がやられてると思うんですけど、じゃ、この方が中学生、中学生も入ってるっていうふうに、社会体育に入ってると思うんですけど、中学生になって、どれぐらいの方が継続して同じ競技ですね、されてるのか、ちょっとわかりましたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

市内、中学1年生に調査した結果がございます。小学生のころ、6年生の段階で195名の児童が社会体育に参加しておりまして、中学校でその後続けているのは87名おりましたので、およそ30%が続いているということになります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

195分の87、この数字をどういうふうに解釈するか、ちょっとありましたらお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

失礼しました。計算間違いをしておりまして、申しわけありません。40%近くに上ります。

298と計算してまして、195名なので約40%ぐらいになります。

数字の見方についてですが、いろいろあると思います。例えば、ずっと続けて立派だという見方もありますし、また、中学生の場合、例えば6時半まで部活動をしてその後、また夜、活動しているとなると、家庭学習にも影響出るかと思しますので、これについては、いろいろな見方があるというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

小学校のときの、その社会体育でやられたスポーツを、そのまま中学校で継続してやられるって方は、把握してますでしょうか。もし、していたら、お教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

個人の子が、またそれを同じのを続けているかというところまでは、調査しておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

施設の話ですので、実は、私、柔道とか相撲しか、そういうことしかやってないんですけど、たまに総合体育館、眺めにいくことあるんですけど、スポレックだとかソフトバレーだとか、例えば美山のグラウンドだとグラウンドゴルフとか、やはりほかから呼んできて200人、300人に近い大会もされてます。これ、社会体育で、すごく頑張ってるなというふうに感じております。

その一方、やはり今の競技のほうは、少子化で下がってきてる。やはりそこらあたりがニーズの考え方だと思うんですけど、その中で、例えば冬にソフトバレー、やってる方はいいんですけど、観客席、控えの選手が震えながらやっています。逆に言うと暑さの中で、27年に大相撲やったときも、実は、やはり大変で、あのときは特設のエアコンをつけていただきました。それによって、本当に力士も驚いておりました。涼しくてよかった、観客も暑いと大変だと思いがらって言いながら、やってくれてありがたかったとは言いながら、仮設ですので、昼からになるとかなり暑くなってきました。実は、前の日に七尾市だったかな、でやってたんですけど、大相撲、1時間早く切り上げた。熱中症で危ないかもしれないってことで、そんなこともありますんで、私は、総合体育館、ことし予算とって、設計の予算とってあるんですけど、ぜひともやっぱり、総合体育館、そういうふうなものに対しての、もうこれからの時代はエアコンが必要だろうというふうに考えますんで、ぜひとも、そういうふうな形で進めていただければというふうに思います。その点、予算取りをしておりますけれども、改めてまた、ちょっとご答弁いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えします。

市民総合体育館につきましては、空調設備を第一に、利用者のほうの要望もありましたので、進めてまいりたいというふうに、今現在、考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ぜひとも、よろしくお願いします。

私は、社会体育のほうは、本当に頑張ってるなというふうに感じております。

さて、私ごとになるんですけど、山田市長のときに、私たち武道をやる、相撲だとか剣道だとかそういう方が集まって武道会というのをつくりまして、武道館の建設に要望したことがあります。でも、それからもう二十何年たって、実は、私、つくっていただかなくて、ほっとしてる部分があるんですね。っていうのはどういうことかっていうと、例えば柔道、普通の体育館の中で畳を敷いてやるっていうことは、やはりこの時代なかなか、そうなったときに、常に畳が敷いてあるそういう施設っていうのは、もう特殊ですので柔道以外、若干しか使いません。でも、今、柔道の、我々糸魚川の人口を比べると、本当に小学生が10名以下だと思います。やっぱりそうなったときに、逆に施設はつくったけど、子供の数がいない、競技者がいない、これは、やはり私にとっては、何かもったいないし恥ずかしいなという部分もあります。やはりそういう部分が必要なのではないかな。その点で、やはりこれからの本当のスポーツ、どんないろんなスポーツですけど、どれぐらいの人数がいるのか、競技者なりそういうふうなものを調べた上で、やはり施設っていうのも管理が必要なんじゃないかと考えてます。

ことしの予算で、市の総合グラウンドですか、の公認のために予算をとりました。でも、そう言いながら、私は、ことしでこの中学校のその大会が終わる、残念でなりません。そうなったときに、本当に、じゃ、公認のグラウンドが必要なのか、そこまでやっぱり議論が必要になってくるんじゃないかというふうに思うんですね。ことしは、やはりそういうことで、長年のあれだったのかもかもしれません。でも、次回、もしやるとしたら、やはり考えなきゃいけないのではないかと。そのニーズに合った施設っていうものが需要ではないかというふうに考えております。その点、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

公共施設の総合管理指針の中でも、これからの更新、それから維持管理、そういうものについては利用者の意見も十分お聞きをしますが、利用者の数というのも考えた上で、設置あるいは改修等をしていかなければいけないと思っております。今ほどの、美山の陸上競技場につきましては、定期的な公認の更新時期がありますので、今回は更新をさせていただきましたけども、またこの次のときには、そういう利用者の状況でありますとか、大会の開催、市内大会だけではございませんが、県内の大会等の開催見込み等も踏まえながら、公認を取るか、またそのための改修をするのかどうか、そういうところは判断をしてまいりたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、人数ばかりじゃなくて、スポーツ、これスポーツばかりでないと思うんですね。選手が優秀だとかやる気がある、当然の話です。でもそれ以上に最も大事なのが、私は、指導者の熱意だと思うんですね。私も、本当に30年間ほど、糸魚川高校で柔道やってきました。やはり公立高校の

先生が、熱意のある柔道の先生はいます。ところが公立高校は7年で移動しなきゃいけないんです。県でやはり3位に入賞するぐらいになります。その先生に集まってくるんですね。でも、その先生が、もう7年たって別の学校に行くと、その学校が衰退し、その先生の行ったところが、また強くなる。やはりまさに、この施設だとかそういうことだけじゃなくて、指導者の熱意が、やはりこのスポーツ、これスポーツばかりでないと思うんですけど、重要ないわゆる要素だと思うんですけど。やはり、我々、この施設をつくる段階でも、やはり本当に熱意のある方がいるところに設備をつくり、ただ本当に、スポーツでもやればよいという部分と、本当にトップを目指すそういうものによって、かなり違うと思いますんで、そんな考え方でやっていただければと思うんですけど。

私も、本当にあれですけど、最初に、糸魚川高校の柔道部引き受けました。私は、3年間柔道を糸魚川高校でやっただけで、指導者に指導を歩いたわけではありません。ですから、最初に部活動のいわゆる指導員っていう形で任命させていただいてやりましたが、最初は部活、楽しければいいわというふうに思って受けました。でも、楽しければいい柔道部が、卒業した後に、柔道部に戻ってきてくれないんですね、大学に行っても戻ってこない。でも、あるときからやっぱり真剣に、かなり厳しいですけどやりました。そうすると、その方がみんな戻ってきてくれるんですね。やはり、真剣さが大事なんだろうと思うんです。それと同時に、最初は楽しければいい柔道部だったものが、上越大会で入賞しよう、上越大会で優勝しよう、で、あるとき優秀な選手がいて、県大会で優勝することもできました。やはり、そういう指導者の目標が、やっぱり子供に伝わり、人が集まってくるんだと思うんです。だから、そういうことも考慮してやらなきゃいけないんじゃないかっていうふうに、本当につくづく思います。

実は、インターハイに、静岡で行われた女子の柔道ですけど行きました。私、もう限界を感じました。何かって言うと、私が糸魚川高校で、目標は県で優勝してインターハイに出ることだけでした。事前の練習行きましたけど、みんなトップを目指してるんですね、目つきが違います。我々、物見遊山じゃないです。やはりそこに、やはり指導者の熱意っていうものが最も大事だっていうふうに感じました。

ですから、施設のほうは市としてやらなきゃいけないことだと思うんです。でも、その中で、やはり指導者、本当に糸魚川でも熱意のあるいろんなスポーツの方があるかと、ただ、本当にやればいいというだけの部分と、本当に熱意を持ってやる。私は、それを、施設の整備も、やはり熱意のある指導者のことも考慮してやっていただければというふうに思います。

県の糸魚川高校に柔道場もあります、白嶺高校にも柔道場があります。現実には、糸魚川の柔道クラブは白嶺高校の道場を借りてます。私は、それでいいんじゃないかと。ですから、県だとかそういうところに連絡をとって、やはりそういうところを有効に使わせてくれるということも、施設の中で考えなきゃいけないことだというふうに思います。

実は、白嶺高校も受験シーズンになると、その間は使っちゃだめだという話がありました。でも、柔道場は全然、入学式だとかそういうふうなものに、全然、関係ないんですけど、ただ、本当に事務的に、もう無理だと言われますけど、やはりそういうのも、通年使わせてもらえるような、やっぱりそういう連携も必要なんじゃないかと思います。ぜひとも、そんな感じで進めていただきたいんですけど、それに対する意見ありましたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えします。

県立高校の体育施設の開放につきましては、毎年、県のほうを通じて、開放の希望をとっております。市内の3つの高校につきましても同様でありまして、それぞれグラウンドと体育館から、議員おっしゃったとおり白嶺高校につきましては、武道場を開放していただいております。それぞれ希望をとり、希望団体が利用しているところではありますが、その前に、利用調整会議ということで、学校それぞれ事務長が出てこられることが多いんですが、事前に打ち合わせをさせていただいて、開放の約束事を決めてるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

実は、校長がかわったり事務長がかわると、また元に戻ることがあるんですね。だから、そこらあたりも市として県のほうに、やはりそういうことのないようにっていうことの働きかけも必要かと思えます。

実は、体育施設の中に、例えば弓道場があるんですけど、あれは弓道のやる方が自前でつくった設備だと思えますね。そういうふうなものから、やはり市でちゃんと管理する、そういうことも、やはり協議していただければというふうに思います。

もう1つ、糸魚川で、今、糸魚川市として代表としてやってるスポーツは、私、駅伝だと思えますけど、ほかにもございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

駅伝については、県縦断駅伝に、市代表といますか、まとまった陸上の関係の方で選手を集めて参加をいただいております。また、ほかの競技についても糸魚川市が、市があるいは教育委員会が集めたものではありませんが、それぞれの競技で予選等を通して、県大会または全国大会に出ている競技があります。これもみんな、糸魚川市代表として送り出しているところでありまして、激励をしているところでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

その、県の駅伝大会は4位ぐらいかな、3位、なかなか入れないかな、だと思っんですけど、頑張ってると思っんですね。ただ、話にききますと、やっぱりその指導者っていうか、それが自費を出して大学生あたりを、やはり東京から糸魚川までの往復の自動車賃を自分で出して、出て下さいよとかって、やっぱりそんなこともやっています。ですから、この設備ばかりじゃなくて、やはりそういうふうなソフトの部分、運営費の部分、やはりそこら辺にも目を向けていく必要があるんじゃないかというふうに思いますんで、よろしくをお願いします。

最後になりますけど、今まで言ってきた、いわゆる今後の競技スポーツ、いわゆるゼロから18歳のそういうふうなものに対して、その会議を開いて、やはり何かいい方法を見詰めるということ、そして施設も、単に設備をつければいいということじゃなくて、やはり熱意のある指導者ということも考慮した上で進めていっていただきたいと思います。

最後に、市長にちょっとお伺いいたします。総合計画の中に、第1章の4に、質の高い学校教育の推進の中に、実は、スポーツとか文化が余り入ってなんですね、文面が。第1章の3節、生涯学習の中の自立の中の具体的な施策の中に、学校という言葉だとか、体育協会、学校、各競技団体と連携したっていうことで、私は、文化だとか、ちょっとスポーツの部分が、ちょっと弱い表現ではないかっていうふうに思っんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々といたしましては、大きく捉えて、この掲げてる部分がございます、詳細に入っていく中において、具体的にしていけるかと思っっておるんですが、やはりその辺がちょっとつながらないような捉えられ方をするのはいけないなと思っますので、その辺もう一度、もし、指摘されるようでしたら、ちょっと確認をしてみたいと思っしております。

また、今、いろいろご指摘いただいたように、このいろんなスポーツに対しての捉え方、考え方をご指摘いただきました。やはりその中で、やはり指導者の位置づけというのは非常に大きくあるのだからと思っっておるわけでごございまして、その辺もやはり、今まではどちらかという、その選手と、そして施設というようなところが、非常にポイントを置いてきたと思っんですけど、もう一つやはり、この指導者というところの位置づけも、どのようにしていけばいいのかというところも、やはりウエートの高いものだろうということで、今の一般質問の中で回答させていただきました。その辺をしっかりと考えていきたいなと思っしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

午前中の東野議員の中に、美山の多目的グラウンドの話がありました。やはり、私もあそこへ行くと、本当にほとんど野球っていうか、少年野球ぐらいしか使っっていないと思っます。やはりそういう、それを多目的というよりも、要望があるなら、いわゆるそういうふうな小学校の少年野球のた

めについてということも1つの、やはり前向きな姿勢で臨んでいただければというふうに思います。
これで質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。

再開を2時といたします。

〈午後1時52分 休憩〉

〈午後2時00分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、平澤惣一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。〔1番 平澤惣一郎君登壇〕

○1番（平澤惣一郎君）

奴奈川クラブの平澤惣一郎です。

これより、通告書に従いまして一般質問をさせていただきます。

1、柵口温泉権現荘元支配人の背任行為と説明責任について。

柵口温泉権現荘元支配人に対する背任行為の刑事告発の結果が公表され、所管の委員会において審議されていますが、不起訴であることから無実であるかのような行政答弁の数々に、疑問を持つものです。

告発の内容は、権現荘職員の内部告発を受け、地元スーパーの伝票を調査し、糖質ゼロの清酒やビール等、糖尿病であった元支配人が好んで飲んでいただとの告発内容と一致したことから、背任行為の証拠となり得る判断、計47回、金額にして39万1,040円であり、参考資料を添えて刑事告発をしたとのことであります。

告発を受けた糸魚川警察署は、県警本部と一年半以上にわたる捜査の結果、書類送検。新潟地方検察庁高田支部の処分は、不起訴であったものの、その内容は小林支配人が背任行為を認め、反省の意を示し、損害額を弁済したことにあわせ考慮した上での起訴猶予処分であり、不起訴とはいえ背任行為が立証されたものといえます。そこでお聞きをいたします。

(1) 起訴猶予の処分決定をどのように受けとめ、責任問題・損害賠償等どのように対応するのか。